

第十一 昭和二十年夏

一、米ハ対日封鎖ヲ強化。本土上陸作戰ノ為、海空
基地ノ獲得。重慶軍、反攻支援並対蘇反攻畧的
見地等ヨリ六七月以降中北支要域ニ対シ上陸
作戰ヲ実施スル、算大ニシテ状況ニ依リ立ト
シテ外援補給ニ依ル重慶國戦力ノ強化ヲ目途
トシ南支接岸作戰ヲ実施スルコトアルハシ。
二、重慶軍ノ対日反攻ハ米ノ大陸接岸近キニ在リ
ト予想シ之ニ策應跟随スル為米式化ガ強師ヲ
骨幹トシ今夏以降逐次ニ發動セラルバク当初

其ノ重慶ハ桂林柳州広東地區ヨリ湖南要域ニ
指向セラルベキ年末頃ニ至ラバ武漢及揚子
江下流要域一帯ニ亘リ所謂討日総反攻ニ轉ズ
ルノ算大ナリ。右ニ策広シ江西浙江河南省方
面ニハ有力ナル一部ノ反攻ヲ見ルコトアルバ
ノ又北支及江北共產軍地域ニ於ケル中共軍ノ
遊撃的擾乱ハ輕視ヲ許サザルモノアルベシ。
三、重慶軍ハ總兵力三〇〇箇師約三百万ニシテ其
ノ骨幹武力ナル米式加強師ハ八月頃十五乃至
二十箇師年末頃ニ至ラバ三十箇師トナルノ算
大ニシテ右ノ外一般重慶軍ノ裝備強化ニヨリ

其、全体戦力、著シク向上スベシ。中共軍ハ
基幹部隊約五十万ト予想セラル、モ他ニ民兵
組織化ニヨル抗日戦力ハ、輕視ヲ許サザルバシ。
四、在支敵空軍ハ、中期約一千機年末頃一千二百機
ト予想スルモ右ノ外來ノ接岸ニヨリ沿岸ニ直
接展開配置セラルバ、モ一年末頃約七百機ト
予想セラル。

六、印支ルートニ依ル外援補給ハ、油送管ノ完成陸
上ルートノ開設ニ伴ヒ飛躍的ニ増大ヲ見其ノ
總量ハ、中期約五万吨年末頃約十万吨ニ達スベ

七、國民政府ハ客觀情勢ヲ推移ニ伴ヒ既ニ會テ
其ノ實權ヲ喪失シ政令續ニ革ム直接威令地區
ニ極限セラレ且極端ナル經濟情勢ノ惡化ハ之
カ存立ノ基礎ヲ危フケスルモノアリ今後重慶
ノ支取米ノ上陸等ヲ見ルニ於テハ重大ナル事
態ニ至ルコト無レトセザルベシ。

0393